

# 社会

## 全体を通して

社会科は、歴史・地理・公民の3分野から出題されます。各分野ともに、さまざまな学習項目から出題しますので、万遍なく学習することが必要です。

本校社会科の入試問題の特徴は、例年試験時間 40 分間で約 40 問と問題数が多いことです。そこで 2022 年度入試からは若干問題数を減らすことにいたしました。それでも問題数は少なくありませんので、効率よく解答する必要があります。たとえば得意な分野から解答を始める、時間がかかりそうな問題は後回しにするなど、あらかじめ自分なりの解答のルールを決めておくといでしょう。社会科の入試問題の傾向は、ここ数年大きくは変わっていません。過去の入試問題を参考にして、得点率が上がる解法をみつけだしてください。

3分野では公民分野が、差がつきやすい傾向にあります。これは、公民は最後の大問として出題されているため、最初から解き始めた受験生が、時間がない状態で解答していることに加えて、6年次の学習分野のため、学習が間に合わず成果をあげられにくい傾向にあることも要因といえます。最初にもいったように、さまざまな学習項目から広く出題しますので、早めに学習を仕上げるように計画・実践していくことを心掛けてください。

## 差のついた問題について

(歴史) 第1回 1 問13

問13 下線部⑬はアメリカから沖縄を日本に返還させた首相です。戦後の日本の国際関係に関して説明した次のAからDの文のなかに、正しい文が2つあります。その文の組合せとして、正しいものを以下のアからカより1つ選び、記号で答えなさい。

- A. 朝鮮戦争が開戦すると警察予備隊が結成され、朝鮮に派遣された。
- B. サンフランシスコ平和条約により独立を回復すると同時に、国際連合への加盟も認められた。
- C. 日中共同声明が発表され、中華人民共和国との国交が正常化した。
- D. 国連平和維持活動協力法の制定により、カンボジアなどに自衛隊が派遣された。

ア) AとB      イ) AとC      ウ) AとD      エ) BとC      オ) BとD      カ) CとD

この問題は、正解率は 67%ですが、合格者と不合格者の正解率の差は 28%と開きました。この種の問題の正否が、合否をわけているといえるでしょう。

この問題が合否をわけた理由は、2点指摘できます。

1点目は、現代史の問題ということです。幕末以降の近代史の問題は、それ以前の時期の問題と比べて比較的正確率が低めで、差がつきやすい傾向にあります。昨年度の第1回の問3などの近現代史の問題も、同様の傾向にあります。この理由の1つは、多くの場合6年生になってから学習するからです。したがって学習が計画通り進まず、仕上がりが遅れる傾向にあります。もう1つには、それ以前の時代の学習内容に比べて、社会の発展などによって内容が複雑になり、細かい部分まで事象や流れを理解しなければいけないなど、深い学習が求められるという点です。そのため、江戸時代までの歴史と比べても、近現代史は難しく感じるはずですが、本校では、このように現代史まで出題します。その点も踏まえて早めに対策をたてましょう。

2つめは、外交史の問題だからです。外交史の場合、日本の独自の歴史の流れ以外に、国際情勢や他国の状況など、複雑な要因によって事象がおこります。したがって、国内情勢以上に深い理解が必要とされます。この傾向は、とくに近現代史の場合強くなります。

したがって、近現代史の外交史は、しっかりと整理して理解しないと、入試問題で求められるレベルまで到達し

ないのです。

この他、経済・産業史や文化史なども差がつきやすい傾向になります。これらの問題は時代ごとに整理するとともに、時代を超えた理解も必要となります。

(地理) 第1回 2 問6

問6 次の表は、2016年における養殖による水産物の種類別収穫量を示したものです。表中のAからCと県名との組合せとして、正しいものを以下のアからカより1つ選び、記号で答えなさい。

〈表〉 (単位：t)

県	かき類	わかめ類	のり類
A	19 061	16 384	データなし
B	286	42	74 602
C	95 634	107	3 650

(「データでみる県勢2019」より作成)

	A	B	C
ア	広島県	宮城県	佐賀県
イ	広島県	佐賀県	宮城県
ウ	宮城県	広島県	佐賀県
エ	宮城県	佐賀県	広島県
オ	佐賀県	広島県	宮城県
カ	佐賀県	宮城県	広島県

正答率は72.1%ですが、合格者と不合格者との差が21.1%と開いています。

水産業に限らず、農牧業や工業などにおいて、特産品がどこで生産されているかを理解し覚えることは重要です。しかし、ただ単にこの特産品の生産量第一位はどこか、暗記するだけでは正解には結びつかないでしょう。

大切なことはそれぞれの産業の立地条件を考えることです。ここでは、養殖がさかんな地域と、その水産物がなぜその地域で養殖されるのか、自然条件をふまえて考えることがポイントとなります。日ごろの学習で、この点を意識している人とそうでない人との間で正答率に差が生じたとも考えられます。

かきの養殖は広島県が最大であること、宮城県も多いが東日本大震災以降、生産量は減少していると読み取れることから、Cが広島県、Aが宮城県。のりは有明海で養殖されるものが多く、また比較的温暖な地域が適していることからBが佐賀県となり、エが正解となります。

日頃の学習より、都道府県の位置をしっかりと覚えることも重要ですが、内陸部なのか沿岸部なのか、北に位置するのか南に位置するのか、といった要素を判断材料にして自然環境の特徴を考えることが大切です。問題を解く時、その特徴と各特産品の栽培条件とを結び付けて考える習慣をつけていくことができれば、正解にたどり着きやすくなります。

日本各地のさまざまな特徴について、なぜそれがそこに立地するのか、理由を考えながら学習すること。地名や用語、特産品を表面的に暗記するだけの学習だけでなく、地図帳を活用し位置情報や理由を考えて学習する習慣をつけているかどうか、正解と不正解を分けた理由に関係していると考えられます。

(公民) 第1回 4 問7

問7 日本の出版物の販売金額は1996年を境に長期低落傾向が続いている。右ページのグラフ1は日本の出版物の推定年間販売金額(電子出版物を除く)を示したものであり、グラフ2は文庫本(電子出版物を除く)の推定年間販売金額と新刊点数を示したものである。出版に関する次の説明文と2つのグラフに関する説明として、適切なものを、次の文のうちから1つ選び、記号で答えなさい

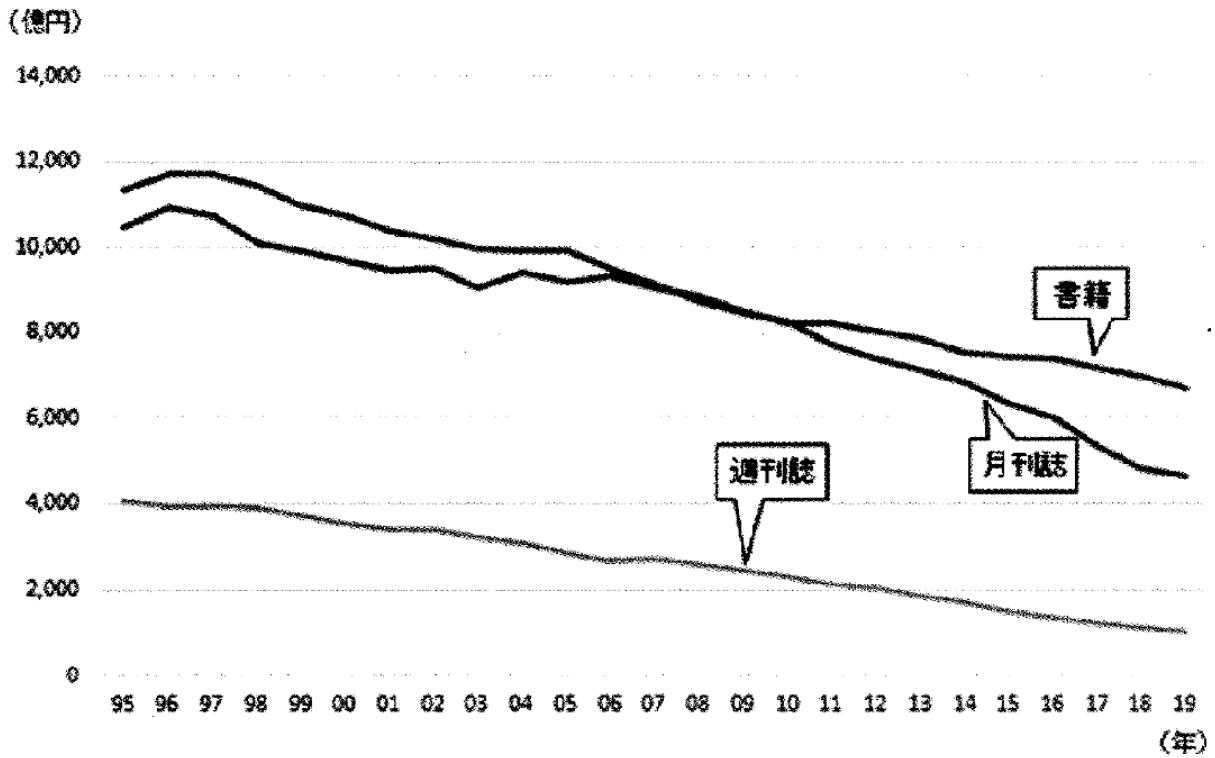
〔説明文〕

出版物を書籍・月刊誌・週刊誌・文庫本の4つの分野に分けて、販売金額や出版点数などの特徴を見てみる。

書籍については、販売金額の減少幅は緩やかである。年度ごとに見ていくと、ベストセラー商品の有無によって年間の販売実績の変動が大きくなることがわかる。一方、月刊誌・週刊誌については1997年度以降22年連続の減少となっている。月刊誌については、休刊点数が創刊点数を上回り、総銘柄数は13年連続で減少している。週刊誌についても同様であるが、こちらは情報を伝えることのスピードでインターネットなど他のツールにおくれを取ることから、売り上げは厳しい。文庫は新しい銘柄が増えたことで、新刊点数は一定数確保されているが、それでもここ5年ほどは減少傾向となっており、また販売金額もここ10年で大きく減少している。

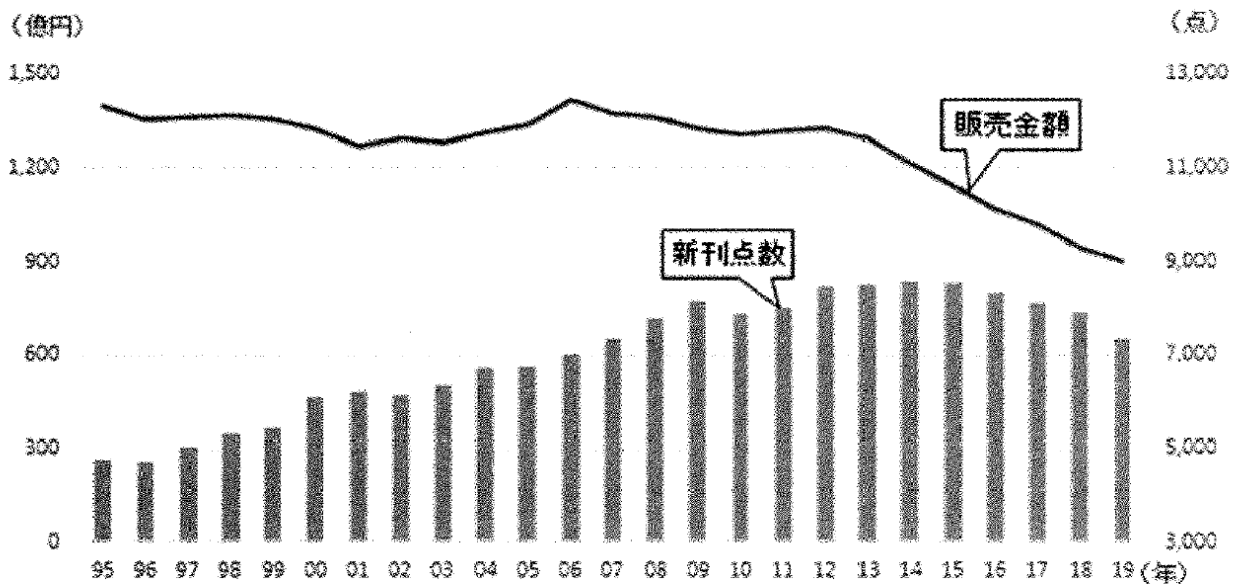
各出版社では出版物の電子化が急速に進められており、電子書籍がその一例である。また、外国での関連書籍の発行も推進しているが、準備にかかる費用の問題もあり、頭を悩ませているのが現状である。

グラフ1 日本の出版物(書籍・月刊誌・週刊誌)の推定年間販売金額



(出典：「出版指標 年報 2020年度版」)

グラフ2 日本の文庫本の推定年間販売金額



(出典：「出版指標 年報 2020年度版」)

- ア) 国内の出版物の販売金額は、1995年以降、書籍が月刊誌をおさえ首位であり、現在6000億円以上となっている。
- イ) 速報性に欠けるため、週刊誌の売り上げは減少し続け、販売金額は2000億円を割り込んでいる。
- ウ) 文庫の新刊点数は2015年から減少に転じているが、販売金額は1995年以降減少し続けている。
- エ) 出版社は出版物の電子化には消極的であるため、紙での出版物の新刊点数は増加し続けている。

第一回公民分野の中で、平均得点率が55.7%と最も低く、なおかつ合否差が23.6%と最も高かった問題です。社会科は数値データと文字情報の両方を用いて社会を考察する教科ですが、この問題はまさにその力を問うている問題です。試験の最後の問題であることもあり時間が限られる中で、的確に文字情報と数値データを合わせて読み解くことが求められます。特にアの選択肢では、グラフ1の書籍と月刊誌のグラフが、グラフを見ただけでは判別しにくく、[説明文]を合わせ読むことで、はじめてグラフを判別し、誤文であることが分かるようになっていきます。このように、

また、正解であるイの選択肢については、[説明文]とグラフ2の両方から情報を得ることが求められていることに加えて、「速報性」という語を難しく感じた生徒もいたのではないかと思います。しかし、速報性という言葉自体を知らなかったとしても、「速く報じる性質」というように熟語を読み解くことができれば、この言葉が[説明文]にある「情報を伝えることのスピード」との文言の言い換えであることを理解することは難しくなかったでしょう。社会科には様々な用語が出てきますが、その多くが漢字の意味を一つ一つ考えれば、その熟語が指す意味内容が理解されるものです。日頃、社会科の用語をそのように丁寧に理解できていたかも、この問題を正解できるかどうかにつながったのではないかと思います。